

A close-up photograph of a hand holding a dandelion seed head. The hand is positioned on the right side of the frame, with the fingers gently gripping the stem. The dandelion is in sharp focus, showing its white, feathery seeds and the brown base. The background is a soft, out-of-focus green field, suggesting a park or meadow. The lighting is bright and natural, creating a warm and peaceful atmosphere.

**(一社)大学コンソーシアム沖縄
子どもの居場所学生ボランティアセンター
概要説明書**

内閣府による沖縄の子供の貧困対策の推進

沖縄の子供達を取り巻く環境は、
全国の中でも極めて深刻

例えば、相対的貧困率が50%超とみられる母子世帯の出現率が全国1位
(全国平均の2倍近く)。一人当たり県民所得は全国最少。

沖縄特有
の課題

- ①深刻な状況にもかかわらず、行政の支援が子供に行き届いていない
- ②日中にとどまらず夜間も子供の居場所がない(学校中退や非行にも影響)
- ③貧困家庭の親が経済的自立をするための雇用の場が少ない

沖縄振興で残された課題の一つとして、子供の貧困の問題について、今後の沖縄振興計画期間中
(平成28～33年度)を「集中対策期間」とし、地域の実情を踏まえた対策に集中的に取り組む。

- (1)寄り添い型支援を行う「支援員」の配置
- (2)安心して過ごせる「居場所」の確保
- (3)経済的自立に向けた親の「就労」の支援

沖縄子供の貧困緊急対策事業の実施

平成28年度予算案:1,000百万円(補助率:10/10)

深刻な沖縄の子供の貧困の問題に緊急に対応するため、沖縄の実情を踏まえた
事業をモデル的・集中的に実施

- ・事業実施後の成果を分析・評価し、好事例の普及を図る
- ・今後3年間はモデル事業として実施することを想定

(1)子供の貧困対策支援員の配置

- －支援員は、地域に出向いて子供の貧困の現状を把握し、学校や学習支援施設、居場所づくりを行うNPO等の関係機関との情報共有や、子供を支援につなげるための調整を行う
- －また、居場所の担い手を確保するなどして、新たな子供の居場所づくりの準備等を行う

(2)子供の居場所の運営支援

- －地域の実情に応じて、食事の提供、生活指導、学習支援等を行いながら、子供の居場所を提供する取組を支援
- －放課後から深夜までの開所も想定

(3) その他の事業

- －事業の成果の分析・評価・普及
- －子供の貧困対策支援員の研修
- －子供の貧困に関する協議会の運営
- －子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営

就労支援のための政策金融の活用

貧困家庭の親の経済的自立を促進するため、親の雇用の場の確保や自立・就労に向けた取組みを、沖縄振興開発金融公庫が金融面から後押し

(1)親の就労機会改善支援(事業者向け貸付)

- －ひとり親家庭の親の雇用や雇用形態の安定などに積極的に取り組む事業者を支援するために、貸付金利の優遇措置を創設
- ①雇用の拡大に取り組む場合:0.3%優遇
- ②雇用の維持や雇用形態の安定(正規雇用への転換及び事業所内保育施設の整備等)に取り組む場合:0.2%優遇

(2)親の学び直し支援(教育ローン)

- －ひとり親家庭の親の学び直しを支援するために、金利引下げ幅を拡大(0.4%優遇→1.3%優遇)

一般社団法人大学コンソーシアム沖縄



設立

- 平成26年9月26日一般社団法人大学コンソーシアム沖縄として設立
- 代表理事:瀬名波 榮喜(設立当時)
- 代表理事:大城 肇(現在) 理事:各大学等の学長及び校長



目的

- 沖縄県内の大学が、相互に建学の精神を尊重しつつ、有機的連携により教育研究を一層充実発展させ、また産学官の連携により地域社会の活性化と発展に貢献することを目的とします

事業内容

- 1 グローバル人材の育成
- 2 単位互換
- 3 学生間の連携・交流
- 4 共同研究
- 5 教職員の研修、交流及び情報交換
- 6 小中高大連携活動
- 7 公開講座(県民フォーラム・出前講座)
- 8 産学官連携
- 9 各種の地域社会貢献
- 10 その他

平成28年度事業

- 1 第3回シンポジウム2016
- 2 県民向け公開講座
- 3 第3回沖縄学生サミット2017
- 4 平成28年度子供科学人材育成事業(中学生及び高校生プロジェクト)
- 5 平成28年度子供の居場所学生ボランティアコーディネート事業

平成29年度事業

- 1 平成29年度子供科学人材育成事業(中学生及び高校生プロジェクト)
- 2 平成29年度子供の居場所学生ボランティアコーディネート事業

一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄 子どもの居場所学生ボランティアセンター実施体制図



大学コンソーシアム沖縄

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 琉球大学 | 沖縄県立芸術大学 |
| 沖縄キリスト教学院大学 | 名城大学 |
| 沖縄キリスト教短期大学 | 沖縄県立看護大学 |
| 沖縄大学 | 沖縄工業高等専門学校 |
| 沖縄女子短期大学 | 沖縄科学技術大学院大学 |
| 沖縄国際大学 | (沖縄県内は
11大学・短大・高専) |

子どもの居場所学生ボランティアセンター

【業務内容】

- ・学生を対象とした学習支援等ボランティアに関する啓発活動
- ・学習支援等プログラムの作成
- ・ボランティア学生の登録
- ・ボランティア学生に対する研修
- ・市町村等の子どもの居場所拠点と学生ボランティアのマッチング
- ・市町村等の子どもの居場所拠点との連絡調整、活動状況の確認
- ・ボランティア学生所属大学との連絡調整
- ・その他ボランティア活動に関する業務

本事業は、「沖縄子供の貧困緊急対策事業」の一環として、内閣府が沖縄県に補助金を交付し、沖縄県が大学コンソーシアム沖縄に事業を委託して、運営されています。

学生サポートボランティア派遣

派遣依頼

学生の活動場所・活動内容



学習支援教室



子ども食堂



子ども向け
アクティビティ

- ・学習支援
- ・生活支援
- ・芸術活動
- ・共同給食
- ・その他

参加学生
支援制度
(メンター制度)

ボランティア
ピア・グループ + メンターの派遣



沖縄県内専門職団体よりメンターの派遣

参加団体 (平成 28 年度実績)

沖縄県医師会、沖縄県医療ソーシャルワーカー協会、沖縄県看護協会、沖縄県教職員組合、沖縄ソーシャルワーカー協会、沖縄県臨床心理士会、沖縄県精神保健福祉士会

子どもの居場所学生ボランティアセンターのこれまでの活動状況

1. センターの設立

平成28年4月14日 大学コンソーシアム沖縄総会において全会一致でセンター設置が了承される

2. センターの体制(平成29年度)

(1)センター長(1名:兼任)

・本村 真(琉球大学 法文学部・教授)

(2)副センター長(3名:兼任)

・島村 聡(沖縄大学 人文学部福祉文化学科・准教授)

・比嘉 昌哉(沖縄国際大学 総合文化学部人間福祉学科・教授)

・金城 芳秀(沖縄県立看護大学大学院 保健看護学研究科・教授)

(3)コーディネーター(2名:専任)

・玉城 福子 ・砂川 育子

(4)事務補佐員(専任)

・渡慶次 美奈子 ・中村 夏希

3. センターの活動(平成29年度)

・平成29年

4月 第1回学生サポートボランティア事前研修会

5月 第2回学生サポートボランティア事前研修会

6月～7月 第1期ピアグループ・メンター(参加学生支援制度)の実施

7月 第3回学生サポートボランティア事前研修会

8月～9月 離島派遣

10月 第4回学生サポートボランティア(参加学生支援制度)事前研修会

第2期ピアグループ・メンターの実施

12月 第5回学生サポートボランティア事前研修会

・平成30年

1月 第6回学生サポートボランティア事前研修会

4. 学生が子どもの居場所へ派遣されるまでの流れ

- ①学生からの応募
- ②事前研修の受講
- ③学生サポートボランティアとしての登録
- ④学生の希望と子どもの居場所のマッチング
- ⑤子どもの居場所へ学生を派遣

※ 学生サポートボランティアの派遣には、定期的な活動と、イベントなどの不定期な活動がある

5. 期待される効果

子ども達と年齢の近い学生が身近な「お兄さん、お姉さん」的な存在となり、子どもの居場所における安心感の向上を達成するとともに、一人一人の子ども達のその時々の実情に沿った寄り添い型のサポートを提供することで、子どもの自己肯定感の向上が図られる。また、それにより、子どもの居場所における他の活動や、学校生活における種々の活動への参加意欲が高まることによる正のスパイラルが生じることが期待される。

6. 学生への処遇

- ・自宅から子どもの居場所までの交通費を支給(県からの受託事業費から支給)
- ・ボランティア活動において、1時間あたり700円の謝礼金を支給
(謝礼金は、企業等からの寄附金のみを原資とし、県からの受託事業費での支給は不可)
- ・参加学生支援制度として、数人の学生による「ボランティア・ピア・グループ」に対して、専門職団体から、メンターを派遣し、学生の悩み等に対して専門的な助言によるサポートを行う。

平成29年度 学生サポートボランティア派遣状況

(平成29年度2月6日時点)

- 市町村推薦 82箇所
- 派遣可能箇所数 72箇所
- 派遣箇所 45箇所
- 派遣市町村 20市町村
- 学生派遣人数 107名(※定期92名 不定期2名)
- 事前研修受講者数 228名
- 登録者数 164名
- 離島派遣 33名

※定期とは、基本的に週に1回など定期的に行われるボランティアのことです。不定期とは、居場所のイベントへの参加など不定期に行われるボランティアのことです。学生によっては、定期と不定期の両方に参加している学生もあり、上記の派遣人数ではその重複を省き、計算しています。

平成29年度 大学別学生サポートボランティア派遣状況

大学名	派遣人数	定期	不定期	離島	事前研修受講者数	登録者数
琉球大学	33	30	1	7	80	50
沖縄キリスト教学院大学	2	3	0	0	10	4
沖縄キリスト教短期大学	3	2	0	1	10	7
沖縄大学	22	16	1	8	29	27
沖縄女子短期大学	8	7	0	5	10	10
沖縄国際大学	12	10	0	5	29	19
沖縄県立芸術大学	1	1	0	1	1	2
名桜大学	9	8	0	1	7	17
沖縄県立看護大学	17	15	0	5	52	28
【合計】	107	92	2	33	228	164

(平成29年度2月6日時点)

平成28年度 学生サポートボランティア派遣状況

(平成28年度3月31日時点)

- 市町村推薦 55箇所
- 派遣箇所 22箇所
- 派遣市町村 13市町村
- 学生派遣人数 50名(※定期43名 不定期10名)
- 事前研修受講者数 104名
- 学生サポートボランティア登録者数 72名
- 離島派遣 6名

※定期とは、基本的に週に1回など定期的に行われるボランティアのことです。不定期とは、居場所のイベントへの参加など不定期に行われるボランティアのことです。学生によっては、定期と不定期の両方に参加している学生もあり、上記の派遣人数ではその重複を省き、計算しています。

平成28年度 大学別学生サポートボランティア派遣状況

大学名	派遣人数	定期	不定期	離島	事前研修 受講者数	登録者数
琉球大学	12	11	2	1	30	18
沖縄キリスト教学院大学	0	0	0	0	4	0
沖縄大学	5	4	2	1	21	9
沖縄国際大学	9	6	3	2	21	18
沖縄県立芸術大学	2	2	1	0	2	2
名桜大学	20	18	2	2	24	23
沖縄工業高等専門学校	2	2	0	0	2	2
【合計】	50	43	10	6	104	72

学生サポートボランティアの活動の様子

名護市学習支援教室ぴゅあ/ 第二教室（きじむなー）（名護市）



小学生向けの居場所。15名ほどの子ども達が利用している。宿題をした後は、思いっきり遊んでいる。写真は、ポスカのインキの色を混ぜ合わせ遊んでいる様子。

NPO法人カナカナ（南風原町）



カナカナは、少数の子ども達を預かる夜の居場所となっている。また、月に一度キッズデーとし地域の子たちへ開放している。写真は、キッズデーでハロウィンパーティーをした時の様子。

たのしくやろう！しゅくだい教室（那覇市）



学童の児童とともに1～2年生の希望者が参加している。学生サポートボランティアに優しく見守られ宿題を終えると元気に子どもたちは外へ飛び出していく。写真は、可愛く飾り付けされた教室の様子。

R・Kアカデミー（那覇市）



中学生を対象に学習支援を行っている。学生サポートボランティア二人が活躍中。10名ほどの中学生が勉強している。写真は、学生サポートボランティアが中学生の勉強を見守っている様子。

離島派遣(石垣島・宮古島・多良間)

大学などのない離島の子どもたちの居場所では、普段大学生と触れ合う機会がないために、学生サポートボランティアの派遣を望む声も大きく、これに応えるために、子どもたちの居場所学生ボランティアセンターでは、学生の長期休暇を利用して、学生サポートボランティアを派遣しています。



離島名(居場所数)	第1回 離島派遣 (平成29年 2~3月)	第2回 離島派遣 (平成29年 8~9月)
石垣島(1箇所)	2	10
宮古島 (第1回目 3箇所) (第2回目 5箇所)	4	20
多良間島(1箇所)	第1回目は未実施	4
合計	6	34

(宮古島と多良間島の2箇所で活動した学生1名をダブルカウントしている。実質の派遣人数は33名)